



標準的接種年齢と接種期間 ・ 日本小児科学会の考え方 ・ 注意事項

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
日本脳炎	不活化	①・② 3歳、①-②は6-28日（1-4週）あける ③ 4歳、①から1年あける ④ 9歳	日本脳炎流行地域に渡航・滞在する小児、最近日本脳炎患者が発生した地域・ブタの日本脳炎抗体保有率が高い地域に居住する小児に対しては、生後6か月から日本脳炎ワクチンの接種開始を推奨する（日本小児科学会ホームページ「日本脳炎り患リスクの高い者に対する生後6か月からの日本脳炎ワクチンの推奨について」を参照） http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=207	・1回接種量：6か月-3歳未満：0.25mL；3歳以上：0.5mL ・定期接種では、生後6か月から生後90か月（7歳6か月）未満（第1期）、9歳以上13歳未満（第2期）が対象、①-②は6日以上、③は②より6か月以上の間隔をあける ・2007年4月2日から2009年10月1日生まれの児に対しては、生後6か月から90か月（7歳6か月）未満または、9歳から13歳未満の間に1期（①、②、③）のうち、未接種回数を定期として接種が可能である 2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受けて、1995年4月2日から2007年4月1日生まれの児は、20歳未満まで定期接種の対象、具体的な接種については厚生労働省ホームページを参照 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/annai.html
インフルエンザ	不活化	①-②は4週（2-4週）あける		・13歳未満：2回、13歳以上：1回または2回（原則1回） ・1回接種量：6か月-3歳未満：0.25mL； 3歳以上：0.5mL
ヒトパピローマウイルス（HPV）	不活化	中学1年生女子 ・2価ワクチン（サーバリックス®） ①-②は1か月、①-③は6か月あける ・4価ワクチン（ガーダシル®） ①-②は2か月、①-③は6か月あける	2013年6月より、積極的接種推奨が中止されているが、HPVワクチンの有害事象の実態把握と解析、接種後に生じた症状に対する報告体制と診療・相談体制の確立、健康被害を受けた被接種者に対する救済などの対策が講じられたことを受けて、積極的接種を推奨する（予防接種専門推進協議会ホームページを参照） http://vaccine-kyogikai.umin.jp/pdf/20160418_HPV-vaccine-opinion.pdf	・接種方法は、筋肉内注射（上腕三角筋部） ・予防接種法では、12歳-16歳（小学校6年生から高校1年生相当）女子（注13）2価ワクチンは10歳以上、4価ワクチンは、9歳以上から接種可能 （注14）標準的な接種ができなかった場合、定期接種として以下の間隔で接種できる（接種間隔が2つのワクチンで異なることに注意） ・2価ワクチン：①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける ・4価ワクチン：①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける